

## 1 学校教育目標

・よく考え くふうする子 ・すなおで 思いやりのある子 ・たくましく やりぬく子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と共に創る学校</li> <li>・信頼される学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も他人も大切にできる子ども</li> <li>・自律した子ども</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の子どもを理解できる教師</li> <li>・子どもが主体的に考える授業をつくる教師</li> <li>・学び続ける教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〔学校の現状について〕

- ・地域や保護者は、学校教育への関心が高く、支援体制が確立している。お米づくり、ブロッコリーづくり等の栽培活動、挨拶運動や清掃活動などを継続的に共に活動し成果を上げている。開かれた学校づくり協議会と現PTA役員との協力体制が強く、運営について伝統的に継承されている。子どもたちを楽しませるPTA行事(6月のふれあいまつり、9月のきもだめし大会)、や12月実施の学校行事マラソン大会では応援だけでなく警備や見守りを連携して行っている。
- ・素直で感性豊かな児童が多い。昨年度は6年生が落ち着かず、高学年がリーダーシップをとる場面は少なかったが、今年度は高学年が学校全体を引っ張っていく学校を目指していく。
- ・教職員は、昨年度の小中連携教育研修会を中心に児童の主体的な学習への研究を深めることができた。児童主体となるための手立てとして児童が「選択」できる場を授業に設定していくことを共有できた。今年度は、「選択」だけでなく、児童一人一人が自ら課題を設定し追究していく学習を目指していく。
- ・令和4・5年度東京都人権尊重教育推進校として、「自分も人も大切に作る児童」を目指し、①教室環境②人的環境③授業の3つの環境を整えることによって育成していく。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止に関しては、感染状況に応じた防止対策を講じ子どもたちの学びは止めないよう工夫し行っていく。

〔前年度の成果と課題〕

### 1 学力の向上

学習についての児童アンケートでは「授業がわかる」という児童が90%であったことは成果である。課題は、目標値を通過しなかった子への手立てを全教員で共有し、取り組んでいくことが課題である。今年度は、区の学力テストで目標値を超えなかった子への手立てを担当だけでなく、全教員で共有し、「授業がわかる」を95%にしていく。「わかりやすい授業」かつ「児童が考える授業」を目指して、教師の指導力向上に向けた具体的な手立て「週に一度他の教員の授業参観」を立て、児童の確かな学力の向上を図る。「個別最適」と「全体最適」を適切に取り入れたICT活用の授業を日常的に実践していく。

### 2 豊かな心の育成

人権尊重教育推進校として「自分も人も大切に作る児童の育成」を目指し、児童一人一人が自己肯定感を高める教育活動を模索し実践したことは成果

である。しかし、学校の日常生活の中で起きる人権に関わる問題に出会った時に、教員によって対応がまちまちであったことは否めず、合意形成の元、一人一人の教員が自律的に対応できるようにしていくことが課題である。「学級活動」を中心とした特別活動や「総合的な学習の時間」を中心に、自分たちが決めたことを実践していくことで、失敗を通して学び、高学年の児童が主体的に学校を引っ張っていく姿を見せられるよう教職員で支えていく。幼稚園・保育園との交流は感染防止対策を講じて実施することができたことは成果である。課題としては、幼稚園や保育園で身につけた主体性を小学校で有効に活用していくことである。

### 3 健やかな身体の育成

体力づくりの習慣化と定着をめざし進めてきた外遊びや縄跳び運動を継続できたことは成果である。一方、課題としては児童がなぜ体力作りの習慣化と定着が必要なのかの意義を理解して主体的に取り組むようにしていくことが課題である。

また、養護教諭や栄養士が健康教育や食育等を通して、児童が主体的に健康について関心をもち、進んで健康を保持増進させようとする活動を生み出せるようにしていく。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	◎	◎	◎	◎	◎
3	健やかな身体の育成	○	○	○	○	○
4	幼保小中の連携	○	○	○	○	○

## 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業</li> <li>自分の考えを伝えたり相手の考えを聞きさらに自分の力を伸ばしたりできる児童の育成を図る授業</li> </ul>		2月の区学力調査で4月比平均点+3点をめざす。(目標通過率80%) 年度末児童アンケート「授業はわかる」90%。							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 新規	授業内 基礎タイム	全学年	年間	毎時間の授業の中で、最初の5分間を、前時までの基礎的な復習をする。	授業観察	毎日1回以上			
新規	選択学習	全学年	年間	授業の中で、児童が主体的に選択できるような学習場面を取り入れる。	授業観察 週案への記載	一単元1時間以上			
継続	AIドリルの活用	1～6年	年間	1～6年担任 キュビナを活用した基礎基本の定着	週案への記載、授業観察 職員会議報告	活用は全児童			
新規	教員の指導力向上	全教科	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>週に一度他教員の授業参観</li> <li>校内研究授業年間3回</li> <li>小中連携授業年間1回</li> <li>教科指導専門員の指導</li> <li>年次研での研究授業</li> </ul>	週案への記載 小中連携実施報告書	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査結果：前年度比+3点</li> <li>卒業対象2名</li> </ul>			
新規	ICTの日常化授業	全教科	年間を通して実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が選択して活用</li> <li>共有、記録、</li> </ul>	授業観察、週案等	毎日1回以上の活用			
新規	学校図書館の活用	全教科	週1回以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせの導入</li> <li>読書時間の設定（週1）</li> <li>前期に授業内で調べる学習コンクールに取り組む</li> <li>ブックトーク</li> <li>ビブリオトーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週案への記載</li> <li>調べる学習コンクール参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンクール参加10件以上</li> </ul>			
新規	家庭学習	全教科 主に国語 算数	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習時間の定着（学年×10分）</li> <li>学年で示したテーマに沿った学習の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任による提出率の確認</li> </ul>	提出率90%			

<b>重点的な取組事項－2</b>				
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度

学校生活の満足度及び自己肯定感の向上	年度末児童アンケートで90%以上	自己評価の際に記入
--------------------	------------------	-----------

**B 目標実現に向けた取組み**

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自分とともに他も大切に する児童の育成 (いじめ防止)	児童アンケート90%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月のいじめアンケートの実施</li> <li>・5年全員のSC面談</li> <li>・年度末児童アンケート実施</li> </ul>	自己評価の際に記入		
人権尊重教育の推進	自己肯定感に関する調査結果の向上(+1点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自尊感情チェックシート」の実施</li> </ul>			
差別や偏見の防止	自尊感情チェックシート結果の向上(+1点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月のセルフチェックシート</li> </ul>			
交流活動の推進	異学年交流年間6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り班活動</li> <li>・異学年との交流活動</li> </ul>			

<b>重点的な取組事項－3</b>		健やかな身体の育成			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	

運動習慣の定着	運動をすることが好きな児童80%	自己評価の際に記入
---------	------------------	-----------

### B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力づくりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長縄・サーキット月一回実施</li> <li>・マラソン大会で自分の最初の記録より上回る児童90%以上</li> </ul>	体育的行事担当を中心に <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育授業での継続的な取組</li> <li>・体育朝会の実施</li> <li>・マラソン大会に向けた休み時間の練習</li> </ul>			
健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の心と身体をセルフコントロールできる児童80%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭を中心に全校で発達段階に応じた健康教育指導</li> <li>・Google フォームでセルフコントロールアンケートの実施</li> </ul>			
食育の推進	食に関する取組（年6回）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育担当と栄養士を中心にアレルギー対応についての指導</li> <li>・1～3年生の給食食材の皮むき体験(サヤエンドウ・トウモロコシ・グリーンピース)</li> <li>・6年生の家庭科で児童が給食の献立を作成し、給食献立に取り入れる</li> </ul>			

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。  
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）